

教育長だより

No. 3

若手の先生へ（再改訂版）

2021年4月13日

えんぴつの持ち方 ～ そのメリット・デメリットとは？ ～

※これは以前「ほほえみ通信」でお知らせしたものです。新しい先生も増えましたので、書き加えて再度紹介します。心のどこかに置きながら、日々の授業や保育を進めてくださればと思います。

学校訪問をときどきさせてもらっています。教室をまわると、みなさんの授業への意気込みが伝わってきます。そして、子どもたちの元気な声を聞くと、無性にうれしくなります。「今日はどうやったらあの子（課題の重い子）がこっち向いてくれるかな？」などと、私も中学校（社会科）の教員として授業に悪戦苦闘・奮闘していましたから。

そんな思いを持ちながら教室に入ると、あるとき気になることがありました。それは子どもたちの鉛筆の持ち方です。何人もの子どもたちが「にぎり持ち」などの間違った持ち方をしていたのです。そこでいくつかの学級でたまたま小テストや作文などの記入をしていたところを数えてみました。すると、どこもほぼ半数の割合で鉛筆が正しく持てていませんでした。すごく気になったので、その後もいくつかの参観先で調べてみました。すると、これは「学校・学年を問わず」の状況だったのです。私、びっくりしました。みなさんの学級ではどうですか。一度調べて、保護者さんに発信してみてもは？ おもしろい学級懇談会になると思いますよ。

このことで、私は十数年前に隣の町で教育次長をしていた時のことを思い出しました。当時、教育長（F先生：元中学校の国語科教員）に随行して、学校訪問をしていた時のことです。2クラス目に入ったら、ちょうど教科担任の先生が「では、板書をノートに写してください。」と言われたところでした。生徒たちは一斉にノート写しを始めました。それをしばらく見ていた教育長が小さな声で「西村君、生徒の鉛筆の持ち方見てみい。おかしい生徒が何人もいるやろ。」と。そのとき私は初めて鉛筆の持ち方に目が行きました。それまでは先生の教科指導や、それを受けての特に勉強のしんどい子の反応ばかりを追っていたものですから、びっくりでした。私は中学校の教員として授業内容などには着目していましたが、「そんな（授業の）見方もあるのか」と、新鮮な気持ちになったのを覚えています。廊下に出るなり、教育長の言葉が続きました。「鉛筆の持ち方は勉強の基本中の基本や。小学校だけでなく、中学校でもちゃんと教えたのがわしら教師の仕事やで。こんなことをわしら若いときにはとことんたたき込まれたもんや。今となっては遠い昔の話やけど・・・。」こんな話でした。『勉強の基本中の基本』この言葉が今もすごく心に残っています。

そこで、今回は「えんぴつの持ち方のメリット・デメリット」をまとめてみました。でも、小学校1年生のスタート時ならともかく、授業内容が詰まっている中で日常的な指導は難しいですね。先生方には気づいたら声かけをお願いしたいのですが・・・。また、懇
(裏面へ)

談会などでも親御さんにも家庭での指導をお願いしていただけたらと思います。いずれにしても、新学年が始まってのスタートの時期、この機会に子どもたちに「発信」をしていただけたらと思います。（中学生や高学年こそ、やっていただきたいと思います。）

一方、保育園や幼稚園、こども園の子どもたちの指導にも役立つのではと思います。色鉛筆やマーカーなどを使い始めますから。そうそう、5年前にこれを読んでくださった園の先生がこんなことをおっしゃっていました。「鉛筆の持ち方は、就学前の『お箸の持ち方』にもかかわるんですよ。それは就学前の私たちの指導にも責任があります。」と。正しいお箸の持ち方と鉛筆の持ち方、基本は同じなんですね。お箸の2本が、1本になったのが鉛筆ということだそうです。「なるほど！！」と私は感心しながら聞いていました。就学前の先生方、子どもたちの将来の学力につながるんだという視点でよろしく願います。

ではまず「持ち方」の前に、**鉛筆の動かし方の原理**を確認したいと思います。正しい持ち方=**指先3本で持つと、「人さし指がハンドルの役割」をして、効率よく鉛筆を動かすことができる**のです。これが正しい持ち方の必要性です。（正しい持ち方はネットを参照してください。）

【 えんぴつの持ち方 】

1. 正しい持ち方のメリット

- ①手や腕、肩、首や目が疲れにくくなるので、長時間書き続けることができる。
- ②勉強に集中することができ、結果として、学力の向上につながる。
- ③姿勢がよくなる。
- ④正しい持ち方は、見た目もきれいで、きれいな文字を書くことができる。
（持ち方が字形に影響する。例：「にぎり持ち」は、指先が柔軟に動かないから。）

2. 間違った持ち方のデメリット

- ①無駄な力が入るので、手や腕、肩、首や目が疲れやすくなり、長時間書き続けることが難しい。
- ②疲れやすいので、長時間勉強に集中することができず、学力低下につながる。
- ③姿勢が悪くなる。⇒字が汚(きたな)く、歪(ゆが)むのはもちろん、視力低下や背骨の歪みなどを引き起こす原因と言われている。
- ④間違った持ち方のまま大人になると、「恥」をかく可能性がある。特に、ビジネスでは、印象を左右することもある。（これはオマケです。でも、そんな場面よくありますよね。例えば、買い物で何かを予約した時、店員さんがメモされる場合など。）

小学校では書く文字数はそれほど多くありません。しかし、中学 ⇒ 高校 ⇒ 専門学校・大学など、上の学校に上がるにつれて「速く」「たくさん」の字を書くことが必要になります。そんな時、無理なく、きれいに書くことができる力はすごく大切です。

そして、そうした先を見通した校・園・所の先生の指導や支援は、**子どもたちが自分の未来を切り拓(ひら)く力の土台**となります。鉛筆やペンの持ち方は、大人になって直すのは難しいです。持ち始めた小さい時が一番効果的ですが、小学校の中・高学年や中学校、高校でも、先生からの「ひと言」のアドバイスをしてあげられたらと思います。

筆について長い歴史の中で確立された鉛筆の持ち方を、保護者のみなさんと共に子どもたちに引き継いで行きましょう。目の前にいる子どもたちの未来のために。